

金融業界の電子化の状況と課題について

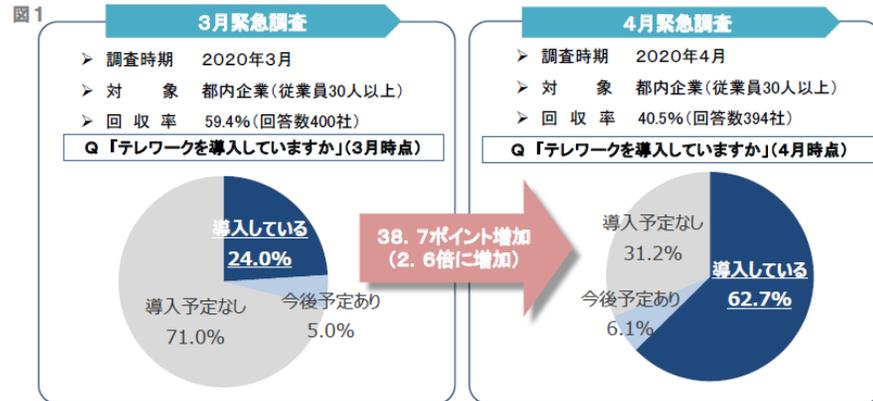
令和2年6月9日

金融庁

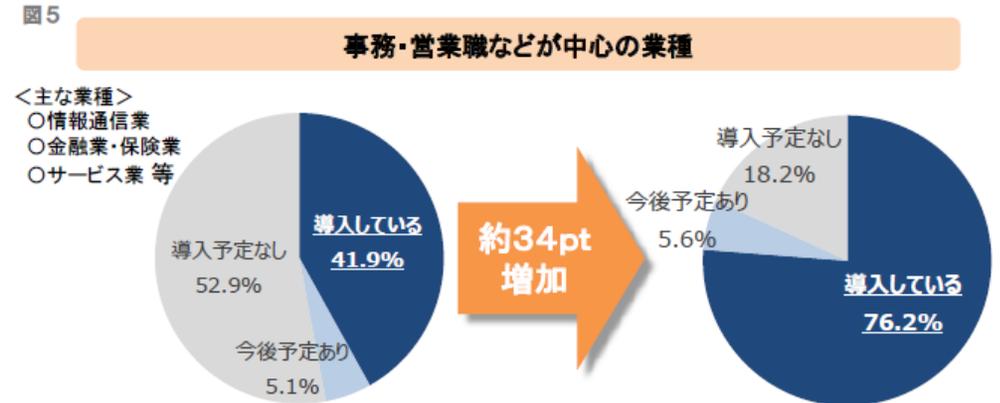
1. 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う勤務形態の変容

東京都「テレワーク導入率緊急調査」 3、4月のテレワーク導入状況を比較

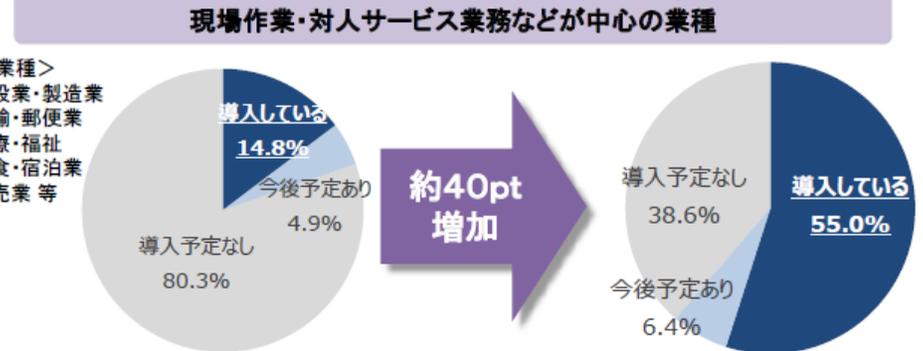
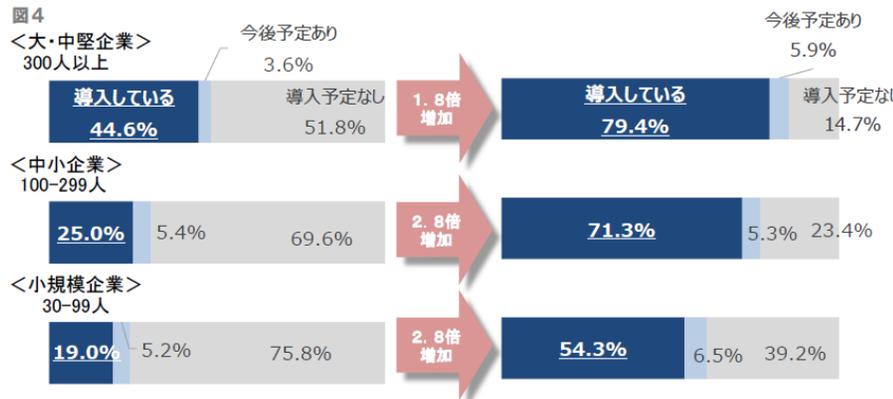
都内企業(従業員30人以上)のテレワーク導入率は、3月時点と比較して大幅に増加



業種別では、3月と比較して業種を問わずテレワークの導入が拡大している



従業員規模別では、企業規模が大きくなるにつれて、導入率も高くなる



出典：東京都 テレワーク「導入率」緊急調査結果

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により**テレワーク導入率増加**

⇒ **業種を問わず**テレワーク導入が拡大している

⇒ **全業界にて**テレワークに対応するため**手続のオンライン化が必要**

2. 検討会設置について

勤務形態の変容への対応

- 新型コロナウイルス感染症拡大を契機としてテレワーク導入の機運が高まる
- テレワークの推進がうたわれるが、書類ベースのやりとりや押印原則のため出勤せざるを得ない事業者が多数あり、従来の商慣習が問題視されている
- 金融業界においても書類・押印・対面の手続が多く残っていることから、金融業界全体で手続の見直しについて検討していく

検討会の方向性

- ① 金融業界の各手続の電子化状況について調査する
- ② 電子化されていない手続について、どのような課題が存在しているかを特定する
- ③ 課題のうち、優先的に解決すべきものから対応方針を講じていく
- ④ 本件を契機に、電子化を通じた事務手続の効率化を積極的に推進する

3. 金融業界の電子化の状況と課題

	取引事例	電子化に向けた課題
(1) 大部分の金融機関が電子化サービスを提供しており、多くの顧客が利用している	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 個人向けインターネットバンキング ✓ ネット保険取引 ✓ ネット証券取引 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 顧客側に使い勝手への不満・懸念がある(対面の方が分かり易い) ✓ 顧客側にセキュリティへの懸念がある
(2) 大部分の金融機関が電子化サービスを提供しているが、利用する顧客数は限定的	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 法人インターネットバンキング ✓ ZEDI ✓ でんさいネット 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 顧客側のコストや使い勝手への懸念(特に、取引数が少ないとコストに見合わない) ✓ ZEDIについては、顧客側に追加コストが高いとの懸念がある
(3) 一部の金融機関が電子化サービスを提供している	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 個人向け新規口座開設(預金取扱金融機関) ✓ 個人向けローン契約 ✓ 保険証券の送付 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 顧客側にオンライン手続(特に本人確認)の使い勝手の悪さへの不満・懸念がある ✓ 金融機関側にも、開発コストに見合う利用者拡大への不安がある ✓ 金融機関側のセキュリティへの懸念がある
(4) 金融機関からの電子化サービス提供が限定的	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 法人との新規取引開始 ✓ 法人代表者変更手続 ✓ 融資契約 ✓ 担保契約 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 法的証拠力への懸念がある ✓ 事業者側のIT環境・体制が未整備であるため、金融機関側に開発コストに見合う利用者拡大への不安がある ✓ 法令による制約(不動産担保取引等)がある